

千川上水整備基本計画

平成 22 年 5 月

武蔵野市 都市整備部 緑化環境センター

【千川上水整備基本計画 目次】

1. 千川上水整備基本計画策定の目的と進め方	・ ・ ・	1
1－1. 目的	・ ・ ・	1
1－2. 進め方	・ ・ ・	1
1－3. 計画対象地の位置	・ ・ ・	3
2. 千川上水の特性と整備基本計画策定に向けた課題の整理	・ ・ ・	4
3. 千川上水の位置付け	・ ・ ・	7
4. 整備基本計画コンセプトの設定	・ ・ ・	10
5. 土地利用計画の立案	・ ・ ・	13
6. 整備基本計画の策定	・ ・ ・	27
6－1. 整備基本計画	・ ・ ・	27
6－2. 整備の優先順位	・ ・ ・	34
6－2－1. 優先的に整備を行う区間	・ ・ ・	34
6－2－2. 優先的に整備を行う施設・環境	・ ・ ・	35
6－3. 施設デザインの検討	・ ・ ・	38
7. 維持管理・利用計画	・ ・ ・	47
8. 今後の展望	・ ・ ・	49

1. 千川上水整備基本計画策定の目的と進め方

1-1 目的

千川上水は、玉川上水を境橋で分水したもので、昭和46年に通水が途絶えてから、平成元年に東京都の「清流復活事業」により下水の高度処理水が通水され清流が復活し、平成18年に境橋から吉祥寺橋までの約3.8kmの区間の管理が東京都から武蔵野市へ移譲された。

本計画は、千川上水の管理が武蔵野市に移譲されたことに伴い、千川上水及び周辺の調査分析を実施し、その結果を踏まえ、水と緑の環境を活用した散策や休憩の場、親水や身近な自然とのふれあいの場として、多くの市民に親しまれるよう整備の方向性を示したものである。

なお、計画策定に当たっては、既に一定の整備がされている護岸構造等の改変に及ばない範囲で、様々な生物が生息・生育する空間としての役割や位置づけを念頭に置き、上水部分と緑道部分、さらに隣接する公園緑地や公共施設とのつながりを図ることとする。

1-2 進め方

平成20年度は、計画対象地の調査分析として文献・現地踏査を実施するとともに、市民の千川上水に対する意識や利用状況を把握するため、アンケート調査・利用実態調査の実施を検討した。

平成21年度は、平成20年度業務の成果およびアンケート調査・利用実態調査結果を踏まえて、千川上水の特性・課題を整理し、整備計画の策定を行うとともに、整備の優先順位や維持管理・利用計画について検討を行った。

なお本計画の進め方を、図1-1 フロー図に示す。

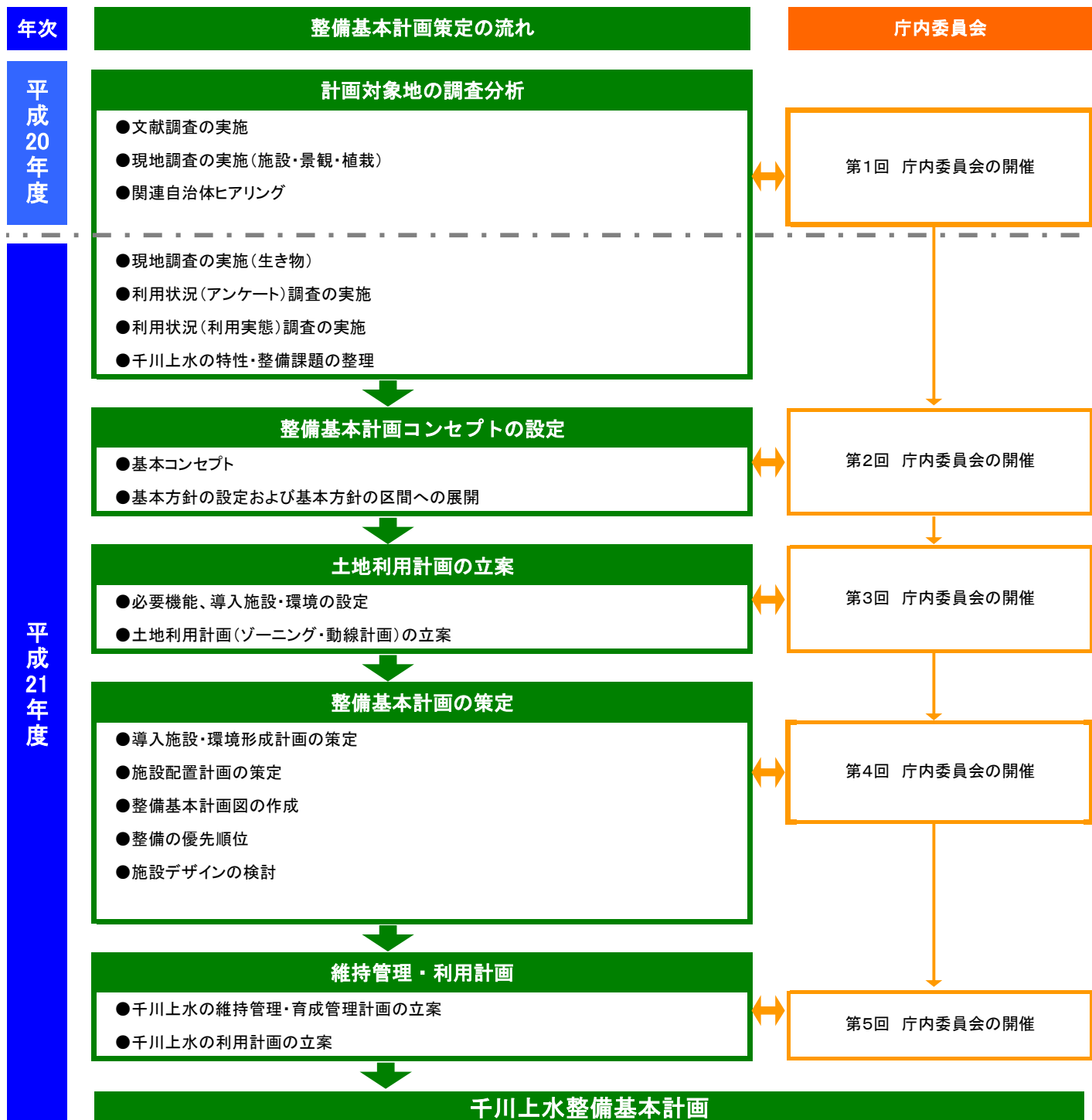
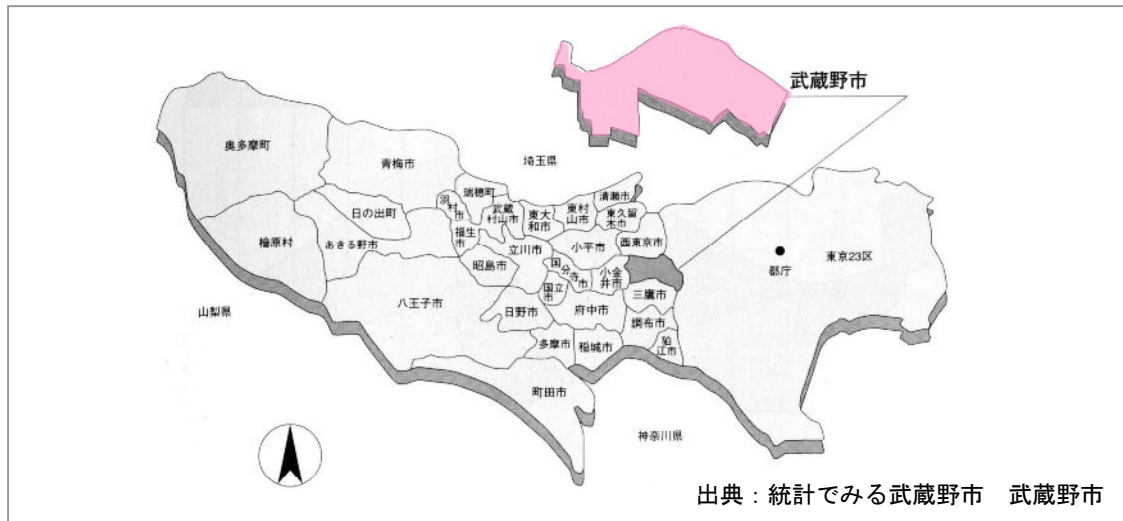


図 1 - 1 フロー図

1-3 計画対象地の位置

武蔵野市は、東京都23区の西側に接し、新宿（都庁）から約12kmの西方、東経139度34分10秒、北緯35度42分53秒（市役所）の地点に位置する。

標高は、50～65m（市役所56.98m）で、広がり東西6.4km南北3.1km、地形は総体的に平坦であり、地質はローム質（火山灰質）土壌である。



計画対象地は、練馬区と西東京市に接する武蔵野市の北端に位置し、境橋～吉祥寺橋の延長約3.8kmである。

本計画の計画対象地を図1-2 位置図に示す。

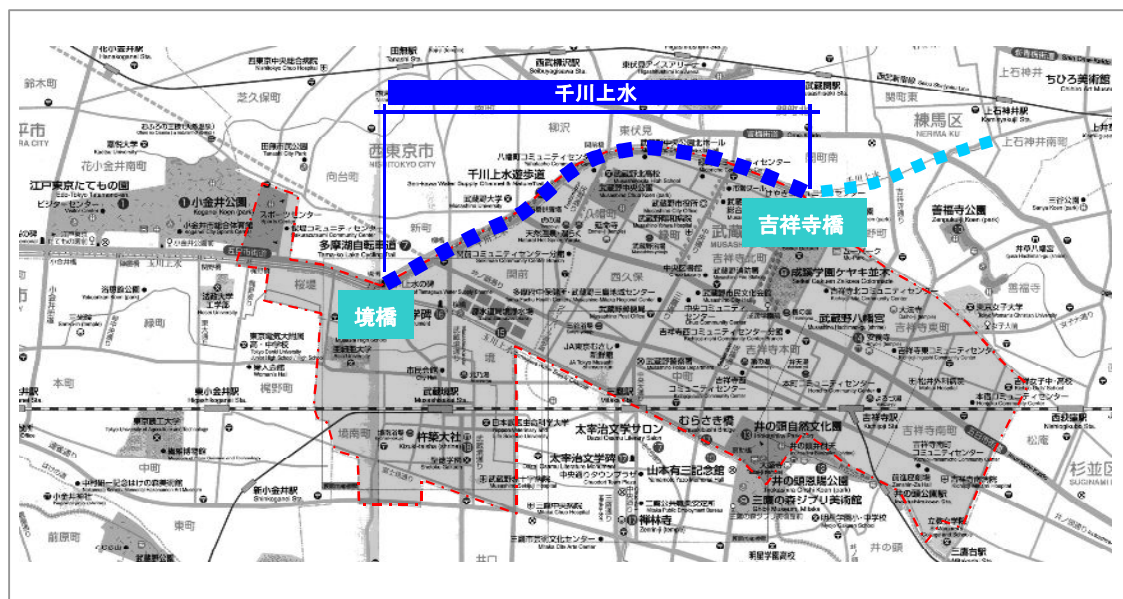


図1-2 位置図

2.千川上水の特性と整備基本計画策定に向けた課題の整理

計画対象地の社会環境と自然環境、および上位・関連計画について調査分析を行った。

社会環境の調査は、千川上水の沿革・歴史のほか千川上水周辺の現況と千川上水の現況を整理するとともに、利用状況を把握するため隣接住民へのアンケート調査(※)と、現地における利用実態調査を行った。

自然環境の調査は、現地の植生・動物調査のほか景観調査を実施した。

上位・関連計画については、武蔵野市・東京都のほか、隣接する練馬区と西東京市の関連する計画について整理を行った。

上記の分析結果を基に、千川上水の特性と整備計画策定に向けての課題を項目ごとに整理し、表2-1 千川上水の特性と整備課題に示した。

なお詳細な調査結果は、資料編にまとめた。

※無作為に抽出した300名のうち128名から回答（回収率43％）

表 2－1 「千川上水の特性と整備課題」

社会環境

計画対象地の特性		
	位置	
	・練馬区と西東京市に接する武蔵野市の北端に位置し、 境橋～吉祥寺橋の延長約3.8km	
	沿革	
	・千川上水は江戸城および江戸市中の水道としては最後に開設された（1696年） ・千川上水は玉川上水の鏡橋付近に取水口を設け、北は石神井川、南は神田川という両水系の分水界上を掘筋として、巢鴨まで開渠の水路であった	
	歴史	
	・1696年に開設 ・1970年代に暗渠化される ・ 1989年に東京都の清流復活事業によって、現在の姿となり流れが復活した	
	千川上水 周辺現況	土地利用
公共施設		
千川上水 現況	流路構造	
	既存施設	
利用状況	自治体の取組み	
	アンケート調査	
	利用実態調査	

整備課題
・千川上水の位置・形状を活用した、緑と水のネットワークの形成
・千川上水の歴史の継承 ・歴史を醸し出す、施設デザインの採用
・千川上水周辺に分布する、スポーツ・レクリエーション施設や文教施設、ならびに老人ホーム等の福祉施設とのネットワークと役割分担 ・千川上水周辺に分布する、スポーツ・レクリエーション施設や文教施設、ならびに老人ホーム等からの利用者を想定した施設整備
・景観の向上や生物の生息・生育環境並びに生態系の向上に繋がるような流路構造の工夫 ・老朽化している施設の改修 ・施設のデザインや素材の統一 ・関連機関との調整による千川上水へのアクセスの利便性の向上
・散策ルートに対応したネットワークの形成
・地域住民や利用者ニーズに対応した環境形成・施設整備・維持管理 ・老朽化している休憩施設の改修や充実 ・安全や防犯に配慮した環境整備や施設の充実 ・老朽化している案内板や解説板の改修 ・景観の向上や生物の生息・生育環境並びに生態系の向上に繋がるような魅力の向上 ・歩きやすい歩道の設置・改修や隣接している歩道との一体的な整備 ・清掃や草刈・樹木剪定等維持管理の充実 ・利用者モラルの向上に繋がる普及啓発や愛護会等創立による地域利用や管理の実施
・区間毎の利用特性に対応した施設整備・環境形成 区間①【境橋～五日市街道交差点部（武蔵野大学正門前）間】　及び 区間②【五日市街道交差点部（武蔵野大学正門前）～電通研究所前交差点間】 ・老朽化している休憩施設の改修や充実 ・安全や防犯に配慮した環境整備や施設の充実 ・景観の向上や生物の生息・生育環境並びに生態系の向上に繋がるような魅力の向上 ・歩きやすい歩道の設置や改修 区間③【電通研究所前交差点～吉祥寺橋　間】 ・景観の向上や視点場の確保等による魅力の向上 ・安全や防犯に配慮した環境整備や施設の充実 ・隣接している歩道と一体的な整備

計画対象地の特性			整備課題	
自然環境	植生		・千川上水用地内に生育する植物は、一部実生等による侵入木が生育するものの、 大多数が植栽木 となっている	・生態系や動植物の生息・生育環境の向上につながる樹林の形成
	景観	内景観	・千川上水を 横断する橋が視点場として位置付き 、上水の清らかな流れと両側に生育する樹木が落ち着きのある景観を形成している ・五日市街道交差部から関前橋までの 都市公園に指定されている区間は、流路沿いに遊歩道が整備されており、上記の景観を一体として視認 できるものの、それ以外の区間は、 低木の群植等に視線を遮られ、連続的に水面を望むことが困難な状況 となっている	・良好な内景観の保全・活用と景観阻害要因の改善
		外景観	・千川上水と併走する都道や市道からは上水の水面を望むことはできないが、 帯状の樹林が景観軸を形成 し、地域景観の向上に寄与している	・樹林の育成による景観軸の保全と、地域景観の向上への寄与
	動物	哺乳類	・現地踏査時にアズマモグラの生活痕（塚）を確認した	・鳥類や昆虫類の食餌植物、地域性樹木の植栽等による鳥類や昆虫類の誘致 ・水路環境（水際、流速等）の多様化による動植物の生息生育環境の向上 ・自然解説板の設置等による自然観察等環境学習への活用
		鳥類	・武蔵野市生物生息状況調査報告書（平成12年度）で、12科14種が確認されている ・現地踏査時に、上記確認種以外にコサギ、アオサギ、カワセミ（0ランク）を確認した（住民からの写真提供：ツミ（0ランク））	
		両生・爬虫類	・武蔵野市生物生息状況調査報告書（平成12年度）で、ニホンヒキガエル1種が確認されている ・現地踏査時に上記確認種以外に以下の種を確認した 爬虫類：アオダイショウ（0ランク）、ニホントカゲ（Bランク）、ニホンカナヘビ、ミシシippīアカミミガメ 両生類：未確認	
		魚類・甲殻類・貝類	・現地調査で魚類のコイ、フナ、アブラハヤ、モツゴの4種、甲殻類のヌカエビ、アメリカザリガニの2種、貝類のカワニナの生息を確認した	
昆虫類	・武蔵野市生物生息状況調査報告書（平成12年度）で、代表的な昆虫類としては、チョウ類8種、ガ類1種、セミ類2種、カマキリ類2種の13種が確認されている ・現地踏査時に上記確認種以外にオオアメンボ、シマアメンボ、ジャコウアゲハ、カラスアゲハ、アカボシゴマダラ、クロコノマチョウ等を確認した			
上位・関連計画	武蔵野市長期計画・調整計画		・グリーンパーク緑地、千川上水、玉川上水、仙川など、軸となる緑と水辺空間を再整備し、様々な緑の保全・創出事業と連携させながら、緑のネットワーク化を推進する ・千川上水の管理が都から市に移管されたことを受けて、「千川上水整備計画（仮称）」を策定し、上水沿いの遊歩道整備を進めるとともに、良好な水辺・親水環境を創出する	・散策路や親水空間等の体系的な整備 ・様々な生物が生息する空間としての役割を念頭におき、上水部分と緑道や公園緑地等とのエコロジカルネットワークの形成を図る ・周辺の公共施設とのつながりや地域との関わりを強化し、施設のネットワークと役割分担を構築する ・千川上水の歴史を継承する
	武蔵野市緑の基本計画		・散策路や親水空間として地域住民に親しまれるよう、体系的な整備を進める ・様々な生物が生息する空間としての役割を念頭におき、上水部分と緑道部分、さらに隣接する公園緑地とのつながりを図る ・周辺の公共施設とのつながりや地域との関わりを強化する	
	武蔵野市都市マスタープラン		・道路や道路の沿道、周辺施設などの緑化を一体的に推進するとともに、玉川上水、千川上水、仙川などの水系については、遊歩道の整備、既存の自然の保全や、自然生態系に配慮した水辺の整備を推進していく。	
	武蔵野市環境基本計画		・グリーンパーク緑地及び遊歩道や玉川上水・千川上水など軸となる緑と水をネットワーク化して緑豊かな都市を形成していく ・管理が市に移管された千川上水については、散策路や親水空間として地域住民に親しまれるよう「千川上水整備計画（仮称）」を策定する	
	武蔵野市防災情報マップ		・千川上水周辺の一時集合場所・避難所：武蔵野大学、武蔵野運動場、小中高校 ・千川上水周辺の広域避難所：グリーンパーク、成蹊大学グラウンド	
	緑の東京計画		・旧上水や中小河川などにおいて、地元自治体との役割分担を図りながら、清流の復活などを進める	
	10年後の東京		・水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京の復活	
	練馬区緑の基本計画		・千川上水跡の歴史性を反映した街づくりへの活用 ・千川上水跡等を利用した快適な歩行空間の形成 ・千川上水、千川通りの歴史性を活かした道路緑化や並木の形成	
	西東京市緑の基本計画		・石神井川、玉川上水、千川上水といった河川・水路の水質浄化と沿川の緑化、多自然型の護岸整備などの総合的推進	

3. 千川上水の位置付け

千川上水の特徴と整備基本計画策定に向けた課題を基に、緑と水のネットワークの視点、レクリエーションの視点、および都市環境・景観における視点から千川上水の位置付けを設定した。

(1) 緑と水のネットワークにおける千川上水の位置付け

千川上水は、玉川上水から分水してつくられた水辺であり、本市を代表する水辺空間のひとつである。これらの水辺空間は小金井公園、井の頭恩賜公園、善福寺公園、などに近接し、緑と水のネットワークの骨格を形成するとともに、境山野公園、農業ふれあい公園、むさしの自然観察園、隣接する緑地、農地、屋敷林など骨格を補完する身近な緑にも近接し、動植物の生息・生育環境の向上に寄与している。

なお、通水される高度処理水は、清流復活のみでなく、火災発生時の消防水利としての役割も担っている。



図3-1 緑と水のネットワークにおける千川上水の位置付け

（２）レクリエーションにおける千川上水の位置付け

千川上水は玉川上水と連続し、総合的なレクリエーションの場である小金井公園や武蔵野中央公園と主に自然探勝型のレクリエーションの場である井の頭恩賜公園や善福寺公園等に隣接し、レクリエーション機能上、うるおいのある水と緑のレクリエーションネットワーク施設として位置づけることができ、レクリエーション機能の向上に寄与するとともに、散策コースとしても位置づいている。



図３－２ レクリエーションにおける千川上水の位置付け

(3) 都市環境・景観における千川上水の位置付け

千川上水は西東京市・練馬区と武蔵野市の境界部分に位置し、玉川上水と連続した帯状の緑として、うるおいのある都市環境・景観の向上に寄与する、緑地や水辺として位置づいている。



連続した帯状の緑を形成する千川上水

4. 整備基本計画コンセプトの設定

整備課題、および千川上水の位置づけを踏まえて、基本コンセプトを設定した。

また、基本コンセプトの具体化に向けて、基本コンセプトから導かれる基本方針を施設整備方針、景観形成方針、環境形成方針、歴史継承方針に大別し設定した。

なお、武蔵野市管内の千川上水（境橋～吉祥寺橋の延長約3.8km）は、周辺の土地利用や千川上水の断面構造、歩道の有無等の整備状況、ならびに利用形態等から、3つの区間に大別することができる。

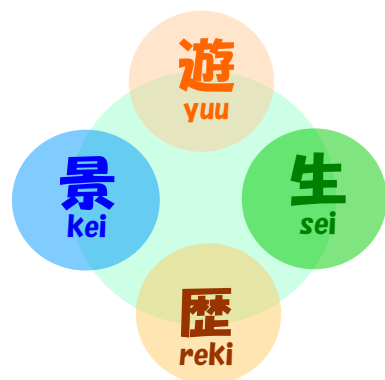
そのため、整備課題や基本コンセプトから導かれた基本方針を、各区間の特性を踏まえて展開し、区間方針を設定した。

基本コンセプトの設定から基本方針、基本方針の区間への展開までを、表4-1 基本コンセプトと、図4-1 区間別方針図にまとめた。

表 4-1 基本コンセプト

【千川上水整備基本計画】

千川上水の歴史に遊・景・生を紡ぐ



遊
景
生
歴

- 周辺の公園・緑地等とのネットワークと役割分担から、休憩・レクリエーション機能の向上を図る
- 水と緑の景観資源として、清らかな流れや緑、鳥のさえずりや水音等の演出により、景観の向上を図る
- 生物の生息・生育環境の向上・創出により自然環境の向上を図る
- 300年にも及ぶ千川上水(用水路)の歴史と文化を踏まえ、未来への継承を図る

基本方針

施設整備方針

- 安全や防犯に配慮した施設の充実
- 散策や休憩機能の充実
- 施設（サイン等）のデザインや素材の統一
- 自然解説板や樹名板等の整備による自然観察の充実
- 老朽化している施設の改修
- 関連機関との調整によるアクセス・利便性の向上

景観形成方針

- 樹木の適正管理により、水と緑が織り成す景観の向上を図る
- 季節感のある花木・紅葉木・地域性樹木の補植等により、うるおいのある景観の演出を図る
- 景観に配慮した水路環境（水際、流速等）の整備
- 景観阻害要因（ごみの散在、雑草の繁茂等）の改善により、景観の向上を図る

環境形成方針

- 休憩、風景探勝、自然観察等のレクリエーションの場として、安全で快適に利用することのできる環境形成を図る
- 鳥類や昆虫類の食餌植物や地域性樹木の補植、水路環境の整備により、生物の生息・生育環境の向上・創出を図る

歴史継承方針

- 歴史解説板等の設置による千川上水の歴史継承機能の充実
- 歴史を醸し出す、施設デザインや素材の採用

基本方針の区間への展開

武蔵野市管内の千川上水（境橋～吉祥寺橋の延長約3.8km）は、周辺の土地利用や千川上水の断面構造、歩道の有無等の整備状況、ならびに利用形態等から、3つの区間に大別することができる。

整備課題や基本コンセプトから導かれた基本方針を、各区間の特性を踏まえて展開し、区間方針を設定する。

区間①

施設整備方針

- 自然解説板や樹名板等の整備による自然観察等環境学習機能の充実
- 関連機関との調整による横断歩道の設置等、千川上水へのアクセスの利便性の向上を図る

景観形成方針

- うるおいのある景観の演出を図る

環境形成方針

- 鳥類や昆虫類の食餌植物や地域性樹木の補植、水路環境の整備により、生物の生息・生育環境の向上・創出を図る

区間②

施設整備方針

- 自然解説板や樹名板等の整備による自然観察等環境学習機能の充実
- 歩きやすい歩道の設置や改修、老朽化した休憩施設の改修等による散策や観察機能の充実

景観形成方針

- 景観に配慮した水路環境（水際、流速等）や周辺樹林の形成により、緑と水が織り成す景観の向上を図る

環境形成方針

- 鳥類や昆虫類の食餌植物や地域性樹木の補植、水路環境の整備により、生物の生息・生育環境の向上・創出を図る

歴史継承方針

- 景観に配慮した水路環境（水際、流速等）の整備
- 供養塔周辺環境の整備と解説板等の設置による歴史継承機能の充実

区間③

施設整備方針

- 通過利用や散策利用に対応し、併走する公道と一体となった歩道整備による動線機能の充実

景観形成方針

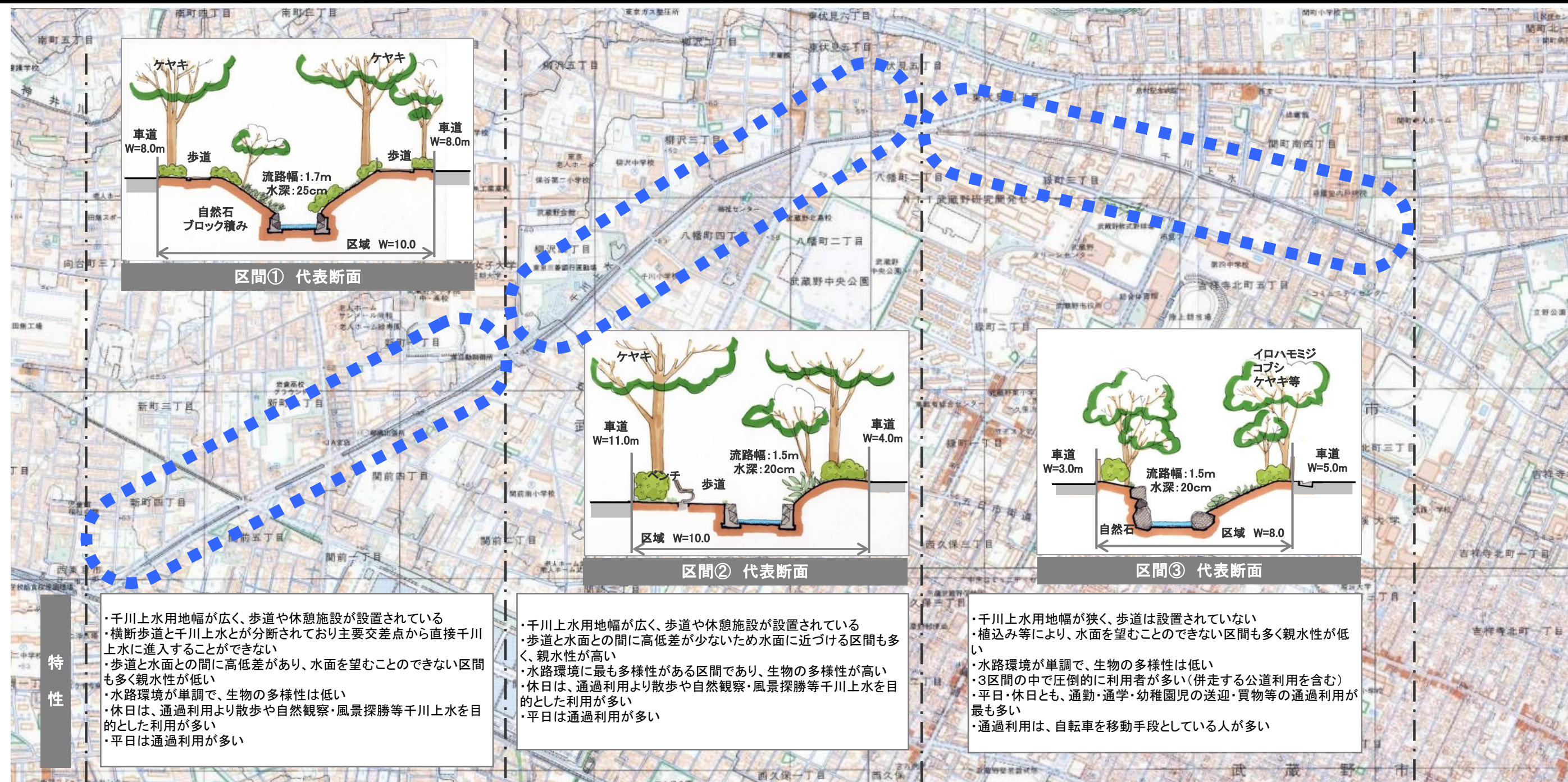
- うるおいのある景観の演出を図る

環境形成方針

- 鳥類や昆虫類の食餌植物や地域性樹木の補植、水路環境の整備により、生物の生息・生育環境の向上・創出を図る

歴史継承方針

- 庚申塔・石碑周辺環境の整備と解説板等の設置による歴史継承機能の充実



区間 ①
【境橋～五日市街道交差点部（武蔵野大学正門前）間】

区間 ②
【五日市街道交差点部（武蔵野大学正門前）～電通研究所前交差点間】

区間 ③
【電通研究所前交差点～吉祥寺橋 間】

図 4 - 1 区間別方針図